

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：12401

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K20676

研究課題名（和文）東アジアにおける影幀を用いた人霊祭祀研究に対する学際的方法論の構築

研究課題名（英文）Study on religious rituals with using portrait in early modern East Asia

研究代表者

井上 智勝（Inoue, Tomokatsu）

埼玉大学・人文社会科学部研究科・教授

研究者番号：10300972

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：肖像画を用いた人霊祭祀を日本・東アジア諸国、および歴史学・美術史学という垣根を越えての理解を目指した本研究の成果として、まず東アジアの帝王像の研究分野に共有される土台構築を挙げておく。天皇・琉球国王の肖像画「御後絵」の集成とそれを中国・ベトナム・朝鮮の帝王像と比較しうる報告書の刊行、「御後絵」の初の専論の刊行等である。報告書は天皇家の菩提寺泉涌寺と塔頭雲龍院の所蔵品のほぼ全点を一書で総覧しうる初の成果である。その他、これまで日本で全く議論されなかったベトナムの釈奠についての関心の喚起、士庶人の影幀を使用した人霊祭祀の様相解明等にも成果を上げ、博物館の展示を通じて市民への還元を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

泉涌寺・雲龍院所蔵の天皇像と東アジアの帝王像を一堂に会する報告書の刊行によって、天皇像を含む東アジア帝王像の研究を国際的な研究課題として登録し得た。それが歴史学と美術史学の協業によって行われた点は、両者の協業の一つの姿を示すものとなっている。本研究における琉球国王の肖像画「御後絵」研究の深化は、奇しくも補助期間の最終段階に沖縄戦以来所在不明になっていた御後絵のうち2点がアメリカで発見され、沖縄県に引き渡されたことによって、今後学術研究上のみならず社会的にも重要な意味を持つものとなる。釈奠研究にベトナムを加え、比較研究する必要性も提起できた。博物館の展示を通じて社会へ成果の還元も行った。

研究成果の概要（英文）：This study aims to link the study of the documents historical study and the art historical study on the subject of human soul rituals using portraits in East Asia. The results of this study are noteworthy in terms of building a common foundation for the field of research on portraits of emperors in East Asia. In particular, we have introduced many portraits of Japanese emperors and Ryukyu king. We have also added new insights into the Vietnamese ritual of celebrating Confucius and his followers (Sekiten), and into the portrait rituals of common people in East Asia. We also returned our research findings to the public in the form of a museum exhibit.

研究分野：歴史学（日本史学）

キーワード：肖像画 帝王 天皇 御後絵 泉涌寺 琉球国王 釈奠 天神

1. 研究開始当初の背景

- (1) 日本の歴史学・民俗学・思想史学・美術史学では、人霊祭祀に関する議論が活発になされていた。しかし、それらは日本に自閉し、東アジアの人霊祭祀を視野に入れたものにはなっていなかった。とはいえ、靖国神社の祭祀が儒典に依拠していることは既に指摘されていたから、人霊祭祀は東アジアの文化基盤の上で理解される必要があった。
- (2) 歴史学・美術史学はともに「史学」でありながらも、その相互交流は必ずしも活発とはいえなかった。両者の協業の成功例を提示することができれば、近くて遠い両者による協業を進展させてゆく契機となることが期待された。

2. 研究の目的

東アジア諸国における影幀を用いた人霊祭祀を題材に、以下の2項を達成することを目的とした。本研究において東アジアとは、近世期に漢字と儒教道徳を共有した日本・琉球・中国・ベトナム・朝鮮を指す。

- (1) 日本の宗教文化史研究を、東アジア宗教文化史研究の舞台に引き出し、国際的な議論を喚起する。
- (2) 宗教思想を媒介に、歴史学・美術史学の壁を越える範型 = 方法論を構築する。

3. 研究の方法

歴史学と美術史学が共通の研究対象となし得る影幀(肖像画)を用いた人霊祭祀に材を求め、以下の方法で研究を進めた。

(1) 検討対象

- (甲) 東アジア諸国の帝王の影幀を用いた祭祀
- (乙) 東アジア諸国の釈奠(孔子ら儒教の聖人祭祀)
- (丙) 釈奠から派生した柿本人麻呂影供・天神(菅原道真)影供

- (2) 研究組織: 日本・琉球・中国・ベトナム・朝鮮をカバーする内外の研究者で構成(海外研究者は研究協力者)し、歴史班と美術班に分け、歴史班は関連文献の収集・研究、美術班は関連図像の収集・研究を主として担当した。

4. 研究成果

- (1) 東アジアの帝王像を比較検討し得る手段の構築: 『描かれた天皇と琉球国王』の刊行
天皇家の菩提寺であった泉涌寺とその塔頭雲龍院が所蔵する天皇および皇子・皇女らの画像ほぼ全点と、沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵の琉球国王肖像画「御後絵」写真全点に加え、明・清皇帝、朝鮮国王、ベトナム阮朝皇帝画像・肖像写真を掲載し、解題と関連文献を明示する年表を付した報告書を刊行した。朝鮮国王については、海外研究協力者からの寄稿を得た。本報告書は歴史学と美術史学の協業のもとにはじめて完成され得た成果であり、且つ今後天皇像を東アジア規模で考察してゆく足がかりを構築した点において、本研究の所期の目的の達成を最も顕著に示すものである。天皇像について、泉涌寺・雲龍院所蔵の画像を一書で一覧できる最初の書籍でもある。

(2) 琉球国王肖像画「御後絵」研究の専論刊行

研究分担者の平川信幸は、それまでの自身の研究の上に本研究での成果を加えて、御後絵についての初めての専論学術書を刊行した。その内容は、御後絵の歴史と保存、描かれた図像、衣装、家臣団、道具・家具類までをも、中国の事例と比較しながら詳細に分析したもので、御後絵についての研究水準を飛躍的に高めた。本書の射程は、土族の肖像画や琉球の孔子像にまで及んでおり、御後絵のみならず琉球肖像画研究を牽引してゆく先駆的研究である。

本研究の成果というわけではないが、補助期間の最終段階である令和6年3月14日、沖縄戦以来所在が不明になっていた御後絵のうち2点がアメリカで発見され、沖縄県に引き渡されたことが発表された。実物資料が得られたことによって今後、御後絵研究は飛躍的に発展するであろうが、本研究の成果はそこにも寄与してゆくことが期待される。

(3) 沖縄の歴史・美術史研究と本土のそれとの共通の議論の土台形成

令和4年12月17日琉球沖縄歴史学会と共催で、研究代表者・分担者を報告者とした研究の中間報告会を開催した。内容は、釈奠・人麻呂祭祀、天神像の展開、天皇の肖像画、御後絵についての報告であった。これによって、沖縄の歴史・美術史研究と本土のそれとの共通の議論の土台の地均しをすることができた。

(4) ベトナムの釈奠・孔子祭祀に対する研究の必要性の喚起

井上は、上記の中間報告会を含む学会報告で釈奠に関する報告を行った。そこでは、国家レベルの孔子廟のみならず、省・県レベルの孔子廟の紹介を行った。これまでベトナムの釈奠や省・県レベルの孔子廟に関する情報は日本では共有されていなかったが、それらを共有する必要性を提起できたと考える。ベトナムの釈奠関係の文献史料も蒐集したが、COVID-19の影響で調査が遅れたため、未だ学界に共有できていない。早急に共有を図ってゆく所存である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 平川信幸	4. 巻
2. 論文標題 琉球国王肖像画の正面性の考察 東アジアの帝王像との比較から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 朱徳蘭、林育生編集『海邦養秀 第18回中歴史関係国際学会議論文集』中琉文化経済協会	6. 最初と最後の頁 26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 松浦清	4. 巻 84
2. 論文標題 天神像	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 てんまてんじん	6. 最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上智勝	4. 巻 58-1
2. 論文標題 朝鮮国における土庶人層の人霊祭祀とその表象(下) 『東国續三綱行實圖』孝子圖を題材に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 埼玉大学研究紀要 教養学部	6. 最初と最後の頁 181-194
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24561/00019751	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平川信幸	4. 巻 46
2. 論文標題 「翁高年（宜寿次盛安）画像」について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 沖縄史料編集紀要	6. 最初と最後の頁 61-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松浦清	4. 巻 82
2. 論文標題 菅公像	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 てんまでんじん	6. 最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩佐伸一	4. 巻 82
2. 論文標題 作品紹介「神仏の姿、人の姿」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 なにわ歴博カレンダー No.82号	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松浦清	4. 巻 80
2. 論文標題 菅公恩賜御衣之図	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 てんまでんじん	6. 最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上智勝	4. 巻 57 - 2
2. 論文標題 朝鮮国における土庶人層の人霊祭祀とその表象 (上) 『東國新續三綱行實圖』烈女圖を題材に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 埼玉大学紀要 教養学部	6. 最初と最後の頁 145 - 161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 平川信幸
2. 発表標題 御後絵（国王肖像画）について - 描かれた背景の秘密をさぐる -
3. 学会等名 首里城公園友の会主催 コンパクト講座
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 岩佐伸一
2. 発表標題 描かれた人たち - 大坂と京都の肖像画を読み解く -
3. 学会等名 大阪市博物館機構主催講座
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 岩佐伸一
2. 発表標題 日本の肖像画の世界
3. 学会等名 歴史街道推進協議会主催講座
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 井上智勝
2. 発表標題 日本宗教史を通じてみる葛藤と疎通
3. 学会等名 第3回 葛藤解決と哲学的疎通学国際コロキウム（韓国・慶北大学校）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井上智勝
2. 発表標題 孔子と菅神 近世日本における神儒の可換性
3. 学会等名 日本宗教学会第81回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井上智勝
2. 発表標題 釈奠と人麻呂・天神祭祀
3. 学会等名 東アジアにおける影幀を用いた人霊祭祀研究報告会（共催：琉球沖縄歴史学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平川信幸
2. 発表標題 琉球国王肖像画の正面性の考察 東アジアの帝王像のとの比較から
3. 学会等名 第18届中琉歴史関係国際學術會議（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平川信幸
2. 発表標題 中国の帝王像からみる御後絵の正面性
3. 学会等名 東アジアにおける影幀を用いた人霊祭祀研究報告会（共催：琉球沖縄歴史学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平川信幸
2. 発表標題 資料紹介 翁高年宜壽次盛安画像
3. 学会等名 首里城研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松浦清
2. 発表標題 天神信仰と天神像の展開
3. 学会等名 東アジアにおける影幀を用いた人霊祭祀研究報告会（共催：琉球沖縄歴史学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩佐伸一
2. 発表標題 天皇の御寺泉涌寺に残された天皇の肖像画
3. 学会等名 東アジアにおける影幀を用いた人霊祭祀研究報告会（共催：琉球沖縄歴史学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井上智勝
2. 発表標題 影幀を用いた人霊祭祀について
3. 学会等名 日本宗教学会 第80回学術大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 平川信幸	4. 発行年 2024年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 284
3. 書名 琉球国王の肖像画「御後絵」とその展開	

1. 著者名 井上智勝 平川信幸 松浦清 岩佐伸一	4. 発行年 2024年
2. 出版社 埼玉大学教養学部	5. 総ページ数 132
3. 書名 描かれた天皇と琉球国王 埼玉大学教養学部リベラルアーツ叢書16	

1. 著者名 岩佐伸一	4. 発行年 2024年
2. 出版社 大阪歴史博物館	5. 総ページ数 4
3. 書名 特集展示 描かれた人たち 尊崇・憧憬・追憶 (展覧会リーフレット)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

大阪歴史博物館 特集展示「描かれた人たち 尊崇・憧憬・追憶」 2024年1月10日～3月4日 大阪歴史博物館 8階特集展示室 http://www.mus-his.city.osaka.jp/news/tokushu/index.html# 作品展示「おおさかの肖像画」 2022年1月5日～2月14日 大阪歴史博物館 9階常設展示室 展示紹介「おおさかの肖像画」(「なにわ歴博カレンダー No.79」所収 2021年11月30日発行)

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松浦 清 (Matsuura Kiyoshi) (70192333)	大阪工業大学・工学部・教授 (34406)	
研究分担者	岩佐 伸一 (Iwasa Shinichi) (70393288)	地方独立行政法人大阪市博物館機構（大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪・大阪歴史博物館・主任学芸員 (84433)	
研究分担者	平川 信幸 (Hirakawa Nobuyuki) (40840715)	沖縄県立芸術大学・芸術文化研究所・研究員 (28001)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	金 哲培 (Kim Chul Bae)	全北特別自治道任實郡文化財管理担当	
研究協力者	梁氏 玉秋 (Luong Thi Ngoc Thu)	漢喃研究院	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------